

令和 6 年度 県立勝田高等学校自己評価表

目指す学 校像	・心身ともに健やかで、気力に満ちた有為な人材を育成することに努める学校。 ・生徒の自立心を伸長し、公正な判断力と健全な批判力を高め、豊かな人間性を培うことに努める学校。			
三つの方針		具体的目標		
「三つの 方針」(ス クール・ポ リシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	(長期的目標) ①心身ともに健やかで、気力に満ちた有為なリーダーとして活躍できる人財の育成。 ②生徒の自立心を伸張し、公正な判断力と健全な批判力を高め、豊かな人間性を身に付けた、社会に貢献できる人財の育成。 ③国際社会で活躍できる人財の育成。		
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	(中期的目標) ①「主体的・対話的で深い学び」を推進した教育課程による、国公立大学及び難関私立大学志望者の進路実現。 ②生徒一人ひとりの個に応じた学習活動とキャリア教育による、就職から大学進学までの進路希望実現。 ③生徒の多様な学習ニーズに対応した学習活動とグローバル教育による、海外大学志望者の進路実現。		
	「入学者の受入れに関する方針」(アドミッ ション・ポリシー)	(短期的目標) ①自分の進路実現を目指し、日々努力する生徒。 ②学校や社会の規範を守って日常生活を送ることができ、学校行事・生徒会活動・部活動・奉仕的活動等に積極的に取り組む意欲のある生徒。 ③国際的な諸問題に関心を持ち、英語等の言語の取得及び異文化交流（理解）に努める生徒。		
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標	達成状況
・学習指導 コンピュータやタブレットなどを活用し、授業の進め方を工夫している割合は、昨年度よりかなり改善が見られたが、引き続き改善を継続する必要がある。 今後は対話的な課題のやりとりができる ClA ssi Note などを活用し、主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善を推進していく。 ・進路指導 国公立大学への現役合格者数は 18 名。国公立大・難関私立大合格者数 30%以上の国公立大・難関私立大合格数 30%以上の目標に対し 48 名合格で目標を達成でき		1 豊かな心の育成	①「挨拶」をする、「時間」を守る、「身だしなみ」を整える、ということを徹底し、規範意識の高揚を図る。 ②国際教育の充実を図り、広い視野と多様性を尊重する態度を養う。 ③奉仕的活動等への参加を積極的に推進し、豊かな人間性を養う。	A
		2 確かな学力の涵養	④教師は授業第一をモットーに、アカデミックな雰囲気の醸成に努める。 ⑤学習指導要領に基づきながら授業内容と方法について工夫改善を加え、入試に対応できる学力の育成を図る。 ⑥ICT 機器の効果的活用を推進するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善に努め、生徒の思考力・判断力・表現力を育成する。	B

別紙様式 2 (高)

た。引き続き、組織的・計画的・継続的な進路指導を行うとともに、探究活動やキャリア教育の充実を図る。また、生徒が自ら探究する態度を育成する体験活動・発表の場を用意し、生徒の取り組みを支援する。 ・生徒指導 生徒の大部分が規律を守り、落ち着いた生活を送っている。規範意識の一層の向上を目指す。交通関係の事故を無くすべく、交通安全指導の充実を図ることが課題である。 ・特別活動 部活動加入率は 80%を超えており、生徒会活動等の活動も概ね活発である。文化祭等の学校行事をさらに充実した内容にするために、勝田中等教育学校との連携を強化し、生徒会及び実行委員会の主体的な活動を協力体制のもと、協働することが課題である。 ・働き方改革 1 ヶ月あたりの平均超過勤務時間が昨年度に比べて約 10%減少しており、長時間労働の改善が進んでいる。完全退勤時間や定時退勤日を設定するとともに、休暇を取得しやすい環境も整えている。各種会議に長時間を要しているため、審議事項等の精選や運営方法の改善を図ることが課題である。 ・授業改善 生徒による評価アンケートにおいて、「生徒が課題を設定したり、解決策を議論したりする時間を設けている」の割合は 79%であったが、「コンピュータやタブレットなどを活用し、授業の進め方を工夫している」の割合は 71%にとどまった。引き続き、ICT 機器の効果的な活用を含め、主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善を推進していく必要がある。	3 進路指導の充実	⑦高校 3 年間及び中等後期課程を見据えた組織的、継続的な進路指導体制の確立に努める。 ⑧探究活動・キャリア教育の充実を図る。 ⑨ICT 機器を利用した教材配信など新しい方策を併せ、自発的な学習習慣の定着と家庭学習の充実を目標とした学習支援を行う。 ⑩面談を充実させ、個々の生徒に応じたきめ細かな進路指導を行う。	A
	4 特別活動の活性化	⑪HR 活動や生徒会活動等をより充実させ、自主・自立の精神の高揚を図る。 ⑫道徳教育等を推進し、学校生活における様々な規則を遵守し、自他の生命を尊重する意識の高揚を図る。 ⑬キャリア・パスポート等を活用し、日々の教育活動の中で培われていく振り返る力と関連付けることへの意識付けを図る。	B
	5 連携の強化	⑭ホームページ等を通して保護者や地域住民への情報発信を積極的に行い、本校及び勝田中等教育学校に対する理解と協力の獲得に努める。 ⑮教職員間の連携を深めるため、報告・連絡・相談・確認・記録の徹底を図る。 ⑯地域の小・中学校への授業参観や先進校視察などを通して、教育課程及び学校運営の在り方や授業改善などについて情報収集を図るとともに、勝田中等教育学校後期課程の体制及び組織づくりに積極的に関わり、学校運営を効率的かつ円滑に進める。 ⑰勝田中等教育学校への移行に向けて、指導体制や教育方針、特色ある取り組みをより明確にして、広く周知する。 ⑱部活動の地域移行を推進する。 ⑲グローバル教育、プログラミング、起業家精神教育における外部団体との連携を推進する。 ⑳WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業（グローバル人材育成強化事業）の推進に向けて、外部団体等との連携を図る。	B
	6 働き方改革の実践	㉑長時間労働の改善に向けて、業務の精選及び見直しを行うとともに、ICT 機器の活用を推進し、仕事の効率化・軽量化を図ることで超過勤務時間の削減を目指す。また、積極的に休暇を取得し、心身の健康維持に努める。	B
	7 授業改善の推進	㉒授業改善推進チームを設置し、校内研修や相互授業参観等の授業改	B

別紙様式 2 (高)

			善に向けた取組の充実を図る。 ②③教師の研修観を転換し、個別最適な学び及び協働的な学びの充実を通じて、主体的・対話的で深い学びの実現に努める。 ②④生徒による授業満足度の評価において、肯定的な評価の割合 80%以上を目指す。		
評価項目	具体的目標		具体的方策	評価	
教科指導	基礎基本の定着を図る。		ICT 機器を活用し、生徒の理解度に応じた学習支援を継続的に行う。	A	・ ICT 機器を積極的に活用し、わかる授業の実践に努める。 ・ 主体的で・対話的で深い学びを実現するため、相互授業参観等をとおして、授業改善に努める。
	指導内容と方法について工夫改善を図る。		アクティブ・ラーニングの視点から、主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善について研修し、指導力の向上に努める。	B	
	学習の習慣化を図る。		ICT 機器を利用して課題や教材を配信するなど、自発的な学習習慣の定着と家庭学習の充実を図る。	A	
			学習の記録をつけさせることにより、家庭学習の取組方法を改善するための指導を行う。	A	
			家庭学習の必要性と効果が実感できるような授業を展開し、自発的な学習習慣の定着を図る。	B	
	進学意識の高揚と学力の向上を図る。		入試問題や模擬試験問題を積極的に活用する。	A	
			授業時間以外の課外指導や個別指導等の充実を図る。	A	
教科	国語	基礎学力の向上を図る。	小テストや週末課題等を通して反復指導を行い、語彙・文法・読解力等の基礎力の定着を図る。	A	・ 「文学国語」を履修していない理系生徒への小説分野の指導が必要である。 ・ 科目を横断して語彙力の育成に努める。
			資料・教科書等を活用した丁寧な授業を通して、深く考察し適切に要旨をつかむ姿勢を養う。	A	
		大学入試に対応できる学力を養成する。	研修会等に参加し、模擬試験の傾向を分析し、大学入学共通テストに向けての対策を行う。	B	
			生徒が自らの考えを表現できる力を、普段の授業や小論文指導等を通して醸成し、自ら入試を突破する力を養う。	B	
			問題集を課題とし、多くの演習を行うことを通して、応用力の充実を図る。	A	
			進路指導部・第3学年と連携を取り、大学入学共通テストに対応できる思考力・判断力を身に付ける。	B	
		教材をとおして、豊かな心の育成を図る。	古典の学習を通して、先人の知恵や教養、日本古来の文化に触れる。	A	
			現代文の学習を通して多様なものの見方に触れ、思考力の育成を図る。	B	

別紙様式 2 (高)

教科	地歴公民	勝田中等教育学校との連携。	授業参観を行い、発達段階に応じた適切な指導方法について研究し、ICT 等を適切に用いた授業改善に努める。	A		
		基礎学力の向上を図る。	ノート・課題等を提出させることにより、学習状況を確認し、授業の工夫改善に努める。	A	A	・今回の新課程共通テストの出題傾向を顧みて、特に「歴史総合」への早期対応が必要と思われる。授業で行うか、課外で行うか等を検討していきたい。 ・中等教育学校だからこそ可能な前期中期の計画的継続的な授業の検討。
			小テストや問題演習等を数多く行い、繰り返し学習することで、基礎基本の定着を図る。	A		
		新課程共通テスト大学入試に対応できる学力を養成する。	放課後・長期休業中の課外授業等の実施により、生徒の進路目標に応じた学力を育成する。	A		
			大学入試問題や模擬試験等から、求められる力を分析し、授業や試験問題の作問に反映する。	B		
			小論文や論述問題にも対応できるように努める。	A		
		国家・社会の形成者としての意識を醸成する。	主権者として社会の中で自立し、他者と連携・協働しながら、社会を生き抜く力や地域の課題解決を社会の構成員の一人として主体的に担うことができる力を養成する。	B		
		勝田中等教育学校との連携。	教員間で相互に授業参観を行い、発達段階に応じた適切な指導方法について研究するとともに、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に努める。	A		
	数学	基礎学力の向上を図る。	授業目標・評価方法等を明確に生徒に示し、シラバスに基づいた計画的かつ継続的な学習指導を行う。	A	A	・新課程の入試に対応する指導の充実を図る。 ・状況に応じてデジタル機器を用いることによる効果的な指導方法を研究する。 ・中高一貫校の特色を活かした計画的な先取り学習を推進していく。
			課題として授業・課外の内容の演習を課し、基本事項の充実を図る。	A		
			3 観点の一つである「主体的に学習に取り組む態度」を養うことを意識した授業改善に取り組み、生徒の学力の定着と新しい評価への対応の両立を図る。	A		
		大学入試に対応できる学力を養成する。	高校 3 年間を見据えて、授業進度の確認や生徒の理解状況、大学入試問題の傾向、大学入学共通テストについての情報等を教職員間で共有し、連携しながら生徒の進路に応じた学力を養成する。	A		
			放課後、土曜日及び長期休業中の課外に継続性を持たせる。	B		
			授業や課外での、模擬試験等の問題演習や解説を通して、応用力を身に付けさせる。	A		
		勝田中等教育学校との連携。	相互に授業観察を行い、発達段階に応じた適切な指導方法について研究し、主体的・対話的で深い学びに向けた授業づくりに努める。	A		
	理科	基礎学力の向上を図る。	家庭学習の必要性和効果が実感できるような授業を展開し、自発的な学習習慣の定着を図る。	A	A	・「思考力・判断力・表現力」を高める指導の充実を今後も図っていききたい。 ・科学的リテラシーが高まるような指導の充実を図っていききたい。 ・個別最適な学びも意識しつ
			最新の話題を提示することや、探究的な活動を取り入れることで科学的な自然観を育成させるとともに、疑問点を主体的に見いだそうとする意欲を持たせる。	A		
			小テストや問題演習を実施し、基本的な概念や考え方の定着を図る。	A		
			定期考査や小テスト等に大学入試問題の内容を反映させ、かつ実施後の復習も丁寧に行う。	A		

別紙様式 2 (高)

教 科		大学入試に対応できる学力を養成する。	早朝、放課後及び長期休業中に課外や個別指導等を実施し、実力の養成を図る。	A		つ、協動的な学びの充実が図られるよう授業を工夫していきたい。
			大学入学共通テストに合わせた思考力、判断力、表現力を育てる授業を展開する。	A		
			模擬試験について、過去問の演習や実施後の指導を拡充する。	A		
			勝田中等教育学校との間で相互に授業観察を行い、発達段階に応じた適切な指導方法について研究するとともに、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に努める。	B		
		勝田中等教育学校との連携。	自己の能力や運動の特性に応じた課題の解決を目指す。	A		
	保健体育	体力の向上を図る。	技能や体力を高めるために、運動の合理的な行い方を身に付けさせる。	B	A	・積極的に運動に取り組むことができた。仲間と協力しながら課題を見つけ、解決する力を育みたい。
			個人生活や社会生活における、心身の健康への関心を喚起する。	A		
		健康の保持・増進ための実践力を育成する。	自ら健康で安全な生活を実践できるような態度を育成する。	A		
			芸術の幅広い活動を通して、芸術を形づくっている要素を知覚・感受させるとともに、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業を目指す。	A		
	芸術	芸術の基礎能力を高める。	個に応じた指導を行い、生徒による授業満足度の評価において、肯定的な評価の割合 80%以上を目指す。また、発表や鑑賞の場を設けることで、基礎的な技能を高める。	A	A	・苦手意識を克服し、楽しく参加できる授業、また自己のイメージや感情を表現し達成感を味わえる授業を目指す。丁寧な授業を心掛ける。 ・主体的・協働的な学びの育成。教え合ったり課題を見つめたり解決したりができる雰囲気作りを目指す。
			我が国の伝統的な芸術に触れることで、日本の文化を尊重する態度を育てる。	A		
		豊かな心の育成を図る。	様々な教材を精選し、演奏したり鑑賞したりすることで、文化・芸術についての広い視野を持たせる。	A		
			早期に中学履修事項の定着を図り、高校の学習内容に円滑につなげる。	A		
	外国語	基礎学力の向上を図る。	小テスト(パフォーマンステスト含む)、演習を定期的実施して、学習効果を高める。	A	A	・授業での工夫や英検課外を継続し、受検者と合格者(特に準1級以上)増を目指す。 ・授業改善の研修に積極的に参加し、より効果的な授業実践をはかりたい。 ・ALT 参加の授業が多いので、より効果的な活用法を模索する必要がある。
			週末課題等の実施・提出を通して、家庭学習の習慣を確立させる。	B		
			個に応じた指導を行い、生徒による授業満足度の評価において、肯定的な評価の割合 80%以上を目指す。	B		
			生徒一人ひとりの進路希望に応じた、課外や個別指導を実施する。	A		
		大学入試に対応できる学力を養成する。	中4から入試問題対策演習を段階的に実施し、実力の向上を図る。	A		
			生徒が各自の課題を明確化し、効果的に学習を行うため、外部試験(英検・GTEC・TOEFL)を活用する。	B		
			英検課外を行い、英語学習への意欲を喚起する。学習効率を高め、年間の2級合格者(中4～高3年)50名を達成する。	A		

別紙様式 2 (高)

教 科		英検合格者の更なる増加を目指す。	「発達段階に応じた適切な外国語指導の在り方」について研究し、学術顧問との連携、近隣小中学校の授業参観や公開授業への積極的な参加を通して、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に努める。	A		
		勝田中等教育学校（前期課程）との連携。	個に応じた指導を行い、自立した生活者に必要な知識と生活技術を身に付けさせる。授業満足度の評価において、肯定的な評価の割合 80%以上を目指す。	A		
	家庭	基礎・基本の充実を図る。	実験、実習等、実践的・体験的な学習を多く取り入れ、協同的な学びの充実を図り、主体的・対話的で深い学びが実現できるよう努める。	B	B	・体験的な学習を通して、自他の尊重する心を育くませることができた。 ・身近な生活の中に課題を発見し、改善に向けて実践できるような問題解決能力の育成を図る。
			身近な生活の中に課題を見出し、授業で学んだことを生かして、それを改善しようとする態度を育成する。	B		
		生活の充実向上を図る能力と態度を育てる。	家族・社会の変化・課題に関心を持たせ、共に助け合いながら生きることの大切さに気づかせ、自他の生命を尊重する態度を育てる。	A		
		豊かな心の育成を図る。	データの收拾・作成・活用や、プログラミングについて、実習を通して基本的な技術を習得し、実生活や問題解決に活かせるように努める。	B		
	情報	情報活用の実践力を育成する。	情報通信ネットワークとコミュニケーションについて理解し、プレゼンテーションや話し合い活動を通して、自己表現力や他者理解について学べるような授業づくりに努める。	B	B	・基礎、基本を重点に置いて授業を進めたため、共通テストを意識した内容ではなかった。 ・プログラミングやデータの活用の演習を行うことができたが、それを用いた活用はあまりできなかった。
		言語活動の充実。	プライバシー・著作権・情報モラルに関する学習を通して、情報が社会に及ぼす影響を様々な面から認識させ、望ましい情報社会の在り方を考えさせる。	A		
		情報社会に参画する態度を育てる。	各種メディアから情報を収集・整理する学習を通して、自己の在り方・生き方について主体的に考える態度を育てる。	A		
			新教育課程の情報Ⅰについて、講演会や研修会等へ積極的に参加し、大学入学共通テストでの出題に対応できるような授業づくりに活かす。	B		
		新教育課程の授業づくり。	各授業時間の実施状況を確認し、授業時間の確保に努める。	A		
		授業時間の確保に努める。	ICT 機器を活用し、感染症等の対応で休校となっても、最大限授業の確保に努める。	A	A	・3 観点評価の付け方の共通認識を深める。 ・教員同士の授業の相互参観の機会を、もっと自由な時に行うような雰囲気作りを図る。
			年間計画(シラバス)を生徒に配付し、授業の目標・学習方法・評価方法を明確に示す。	A		
		学習指導の充実を図る。	校内研修や教員相互で授業参観をする機会を設けることで、より一層の授業の充実を図る。	B		
			新学習指導要領に沿った評価方法について検証し、生徒の実態に合った評価の改善を図る。	A		

別紙様式 2 (高)

教 務	教務		学校運営及び教育課程の在り方や授業改善などについて積極的に情報交換を図り、勝田高校から勝田中等教育学校への教育活動のスムーズな移行に備える。	A		・Classi やClassi note の活用をもっと広める。 ・教務内規の、勝田高校用から勝田中等用へのスムーズな移行（改正等も含む）。
		勝田中等教育学校との連携の強化。	各部と連携し、勝田中等教育学校の体制及び組織づくりを効率的かつ円滑に進める。	A		
			会議資料等のペーパーレス化を進め、仕事の効率化および環境保護に努める。	A		
		幅広い働き方の実現。	各種アンケートをはじめとする従来の業務の ICT 推進を進め、仕事の効率化を図る。	A		
			授業における具体的な ICT の活用法などについて、研修会や動画の配信などを行い、教職員のスキルの向上を図る。	A		
		ICT 機器を活用して、協働学習の促進や言語活動の充実を図り、生徒の思考力・判断力・表現力の向上を目指す。	ClAssi NOTE を活用し、ICT 教育の推進を図るとともに、授業改善を進める。	A		
			教職員に対して研修や支援を随時行い、校務支援システムや ClAssi の積極的な活用を促進する。	B		
		ICT による校務の効率化を図り、教職員の業務負担軽減や労働時間削減を図る。	校内サーバーの保守や、ICT 機器の整備・メンテナンス、各種システムの管理を定期的に行い、安定感のある常に使しやすい状態を維持する。	A		
			各学年や各校務分掌、部活動など様々な部署が、自らたくさんの情報を提供し、高い頻度でホームページを更新するよう、広報に対する教員の意識改革に務める。	A		
	図書館室	教育活動の広報や保護者・生徒への連絡などを、ホームページを通して行い、開かれた学校づくりの一翼を担う。	学校評議員会を通して、学校運営全般に関する意見を積極的に聴取する。	A	A	・中学 1 年生から高校 3 年生という幅広い生徒層の発達段階に合わせた支援と館内環境の整備に心がける。
			毎日視聴覚委員会によるお昼の放送を行うことで、委員会活動を活発化させつつ、放送内容や音量をより工夫し、常時視聴覚機器の整備・点検を行うことで、不具合等によるトラブルを未然に防ぐ。	A		
		視聴覚機器の整備を図る。	「図書館だより」を発行し、本への興味を高め、読書の習慣を育む。	A		
		本に親しむ習慣の育成を図る。	生徒・教員から図書購入希望を随時受け付け、そのニーズに応えることで、図書館をより身近な存在として意識し、利用を促進する契機とする。	A		
			生徒の進路選択に合わせた支援ができるよう蔵書の充実を図り、図書委員会の活性化をしながら、図書館内外の環境を整備する。	A		
		図書館環境の整備を図る。	生徒・保護者に「図書館だより」を配付し、本校の図書館の特色や蔵書等について発信する。特に新入生には図書館の利用指導を行い、積極的な利用を呼びかける。	A		

別紙様式 2 (高)

		校内外への情報の発信を積極的に行う。	進路指導内容を学年間で引き継ぎ、進路指導における学年間連携をより深める。	A		
進路指導	進路指導	高校3年間を見通した組織的・継続的な進路指導体制の確立に努める。	KT・LHR及び学年集会を計画的に活用し、進路学習の充実を図る。	B	A	・保護者会の実施、課外学習や、個人面談、英検対策や面接指導など様々な指導の結果、今年も国公立大学の合格者が出た。 ・高2では放課後に校内でオンラインによる大学説明会も行った。 ・個人のニーズへの対応や費用・時間的なマイナス面にも対応できる形となった。 ・学年のスタッフ数は少ないので、学年と進路指導部で協働して細分化する入試に対応していかなくてはならない。
			生徒の実態に応じ進学講演会・研修会等を行い、正確で適切な情報を提供する。	A		
			事前事後の指導の充実と、他行事との関連を深めることにより、進路行事の充実を図る。	B		
			進路資料、教員のための進路指導シラバス、スタディガイド、生徒が持つ資料の充実を図る。	A		
			生徒に基礎的基本的な知識技能を定着させるとともに、それらを活用できる思考力・判断力・表現力等の育成を目指した教師の指導力向上を図る。	A		
		チャレンジ30 〔国公立大+難関私大合格者数 学年の30%以上〕	Classi・タブレット端末・学習館等のツールを活用し課題や学習補助動画の配信や、生徒の学習状況を確認し、その情報を共有し指導に活かし、生徒が自学自習する態度の涵養を図る。	A	A	
			課外を、対象・目的が明らかになるように改善し効果的に実施する。	A		
			総合型選抜・学校推薦型選抜等指導体制の充実を図る。	B		
			進路学習等を通し、「学ぶこと」や「働くこと」への意欲や積極的な態度を育てるとともに、自らのキャリアを計画、実行できる力を育成する。校外での体験研修等の拡大と充実を図る。	B		
		探究活動・キャリア教育の充実を図る。	「総合的な探究の時間」を組織的、計画的に実施し、生徒の主体的な活動を支援することで、生徒のキャリア形成の一助とする。	A	A	
	積極的にICT機器を活用し、主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善に努め、教員の授業力向上を図る。また、教材配信など新しい方策を併せ、自発的な学習習慣の定着と家庭学習の充実を目標とした学習支援を行う。		B			
	ICT機器の活用。		学校外の様々なコンテスト等の情報を集約し、適切に生徒へ伝達し、生徒の興味関心に応じた参加を支援することで、生徒のキャリア形成の一助とする。	A	B	
	未来探究室	外部コンテスト等の周知と生徒の参加を支援する。	「出口」を意識した進路指導計画を立てるとともに、グローバルデイやキャリアデイなどの「探究」の行事を通して勝田高等学校と勝田中等教育学校との連携を図り、進路指導の充実を図る。	A	A	・コンテストへの参加、受賞者が増加している。 ・ひたちなか祭の実行委員をはじめ、学外での探究活動に積極的に参加しようとする高校生の姿が多くみられた。
		進路指導の目標及び計画を策定する。	大学・官公庁・企業・各種団体と連携し、「探究」を中心とした進路指導計画の充実を図る。	A		
		外部団体との連携を図る。	被害調査を年に3回実施する。	A		

別紙様式 2 (高)

生徒指導	生徒指導	生徒の実態把握に努め、問題行動の早期発見・未然防止に努める。	校内・校外巡視を実施する。	A	B	・被害調査を生活調査とし、普段の生活及び悩みや不安感などについても生徒から発信できるような内容に変更した結果、担や学年に早期につなげることができた。 ・通学路における交通事故が定期的に起こってしまったので、ヘルメット着用、交通ルールの見直しなどの講話の実施に加え、日頃から注意喚起していきたい。	
			各学年と連携し、朝の立哨指導や服装一斉指導時に生徒への声掛けを積極的に行う。	B			
			服装・頭髪指導の徹底を図る。	A			
		規律ある生活態度を育成するとともに、社会の形成者としての資質の向上を図る。	遅刻指導の徹底及び授業のチャイムスタートの励行を図る。	B			
			校外キャンペーンへの参加や、保護者（生徒指導委員）、特別活動部と連携した校内でのあいさつ運動の展開を通して、マナーの向上に努める。	A			
			通学路における登下校指導の充実を図る。	B			
		交通安全の充実を図る。	交通安全講話の実施、啓発プリントの発行等を通して、交通安全意識の高揚と事故時の対応力の向上を図る。	B			
			自転車点検を年に2回実施し、交通事故の未然防止を図る。	A			
	面接週間を年2回設定し、問題点を把握し、早期解決ができるようにする。		A				
	教育相談	問題の未然防止、早期発見、早期支援に努める。	アンケート調査・構成的グループエンカウンターを取り入れ、自分も仲間も大切にする学級づくりを担当が目指せるよう支援する。	B	A		・SCとの連携を深化させ、問題を有する生徒への早期の対応を図り、多様な見方から問題を捉え直すことにより、その解決の方策を担当（学年）と共に探ることができた。 ・研修会を2回実施できた。
			職員研修会を年2回実施し、教育相談に関する資料や情報を教職員に広報することにより、問題を共有化し、支援方法についての理解を深める。	A			
		職員研修の充実を図る。	担任とSCの連携を深化させることにより、問題を有する生徒への早期の対応を図る。多様な見方から問題を捉え直すことにより、その解決の方策を担当（学年）と共に探る。	A			
		スクールカウンセラー（SC）を積極的に活用する。	A	A			
特別活動	部活動の振興により、心身の健全な育成を図る。	新入生へのガイダンス等において魅力ある部活動紹介を実施し、多くの生徒の部活動への参加を促す。	A	A	・各行事において、生徒自身が運営に関わることが出来た。 ・部活動の地域移行等環境の変化に地域と連携しながら対応していく。		
		生徒の安全面に配慮しつつ、技術向上と規範意識の育成を目指すよう、指導者の資質の向上を図る。	B				
		生徒がより効果的な活動・練習が実施できるよう、施設設備の充実を図る。	A				
	特別教育活動に参加する生徒の意識の向上と内容の充実を図る。	勝田高等学校と勝田中等教育学校との連携を図りつつ、生徒会執行部を中心とした主体的な生徒会活動の促進を支援する。	A				
		充実した学校行事の企画・安全面に配慮した運営を行い、生徒の積極的な参加を促す。	A				
		各種委員会において、生徒の主体的な活動を支援する。	B				
		ボランティアの規模や種類に応じて、希望者だけではなく、委員会・部活動での奉仕活	B				

別紙様式 2 (高)

		動への積極的な参加を促す。			
	キャリア・パスポートの活用。	進路指導部と連携を取りながらキャリア・パスポート等を活用し、日々の教育活動の中で培われていく振り返る力の養成と関連付けることへの意識付けを図る。	B		
保健 厚生	環境整備及び美化に努める。	年間2回の清掃用具の点検や日常的なチェックを徹底し、清掃用具の充足を図る。	B	A	・健康管理医・学校薬剤師と連携をとりながら、生徒の健康管理・校内の環境整備改善に努めることができた。 ・長寿命化工事に向け、清掃用具の充足、分担区域の見直し等が必要。
		学校全体で日常的な清掃の徹底に努め、環境の美化に努める。	A		
		教室環境検査を実施し、学習環境の改善に努める。	A		
	心身の健康増進を図る。	健康診断を通して、生徒個人々の健康状態の把握に努める。	A		
		集団や個別に対する保健指導を適切に行い、健康に生きる力・意欲を育てる。	A		
	防災・安全点検等を推進する。	防災訓練を通して、防災意識を高め、災害時に迅速な避難行動が取れるようにする。	A		
		毎月安全点検を実施し、安全な生活環境の整備に努める。	A		
渉 外	P T A活動の活性化を図る。	勝田高等学校と勝田中等教育学校併存期間におけるP T A会員の連携・協力を深める。	A	A	・各委員会は、年度末の運営委員会に事業計画案を提案し、早めの準備をする。 ・本校にふさわしいP T A総会のあり方について引き続き検討を続けていく。 ・Classi やグーグルフォームなどの効果的な活用方法を模索していく。
		地域社会に根ざした学校教育を目指したP T A活動を行い、情報を発信する。	A		
		広報誌「たらさき」を通し、本校の教育活動の広報を充実させる。	A		
	役員の資質の向上を図る。	高P連主催の各種大会や研修会等に参加することで、他校の実践活動についての情報収集に努めながら、本校にとって適切な実践の方法を模索する。	A		
		生徒指導部と連携し、さわやかマナーアップキャンペーンや登校指導を行う。	B		
	各種委員会活動の活発化を図る。	視察研修の一環として、東京都内の大学キャンパス見学等の企画を検討し実践する。	A		
		広報紙「たらさき」の内容充実に努め、積極的に保護者と地域社会に発信する。	B		
第 2 学 年	基本的な生活習慣の確立と生徒の自主性の育成に努める。	P T A役員の選考方法について工夫する。	A	A	・挨拶の励行、マナー意識の向上は意識させることができたが、遅刻者が減らず時間の管理には課題が残った。 ・進路指導部と連携しながら学年職員で進路指導にあたったことにより、生徒が将来学びたい分野を明確化することができた。 ・Classi の学習トレーニング
		挨拶の励行を通じて、他者との関わりやマナー意識を向上させ、より豊かな学校生活に繋げていく。	B		
		登校指導を通して、時間を守る意識を高めさせるとともに、安易な遅刻、欠席をしない意識の育成を図る。	A		
		教室の整理整頓および毎日の清掃活動の充実を図り、学習環境の最適化を図る。	A		
	進路意識の育成を図る。	修学旅行、文化祭、クラスマッチなどの学校行事に主体的に取り組ませることで、連帯感や達成感を育成する。	A		
		校外施設研修、大学見学会、進路講演会、大学模擬授業等とおして、進路意識の向上を図り、主体的に学ぶ意識を持たせ、よりよい自己実現に向けた支援をする。	A		
		総合的な探究の時間を計画的に進め、生徒が自発的に学ぶ素地の育成を図り、具体的に将来学びたい分野を明確にする。	A		

別紙様式 2 (高)

第 3 学 年		国公立大・難関私立大希望者によるセミナーを定期的実施し、進学意識を高揚させ、進路目標達成を目指す。	B		グ機能を活用し、進路実現を意識した学習の取り組みを促すことができた。しかし、学力下位層の取り組み状況は芳しくなく今後の課題である。 ・保護者との連携は密にとることができた。来年度も継続したい。
	基礎学力の確立を目指す。	授業を第一とし、「予習→授業→復習」を中心にした学習習慣の確立を目指す。	A		
		毎週の課題や課外授業を通し、進路実現を意識した学習の取り組みを促す。	A		
		進研模試デジタルサービス等を活用し、生徒自身が客観的に自分の学力をつかみ、自己を向上させるための取り組みを支援する。	A		
	保護者との連携の強化を図る。	学級懇談会や保護者面談、保護者会を十分に活用し、学校と保護者との連携・協力体制の強化を図り、問題の未然防止に努める。	B		
		学校ホームページやClassi等で、進路や学年の情報を積極的に発信する。	A		
		心身に問題を抱えた生徒に対しては、迅速に保護者と連携し、丁寧に対応するとともに、S Cと連携するなど、迅速で適切な対応をとる。	B		
	勝田中等教育学校との連携。	授業参観や研修を通して、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に努める。	A		
	基本的生活習慣の確立と生徒の自主性の育成に努める。	登校指導や学年集会を通して、挨拶の励行、時間を守ること、高校生らしい制服の着用を徹底し、規範意識を高め最終学年としての後輩の模範となる。	A	A	・継続的な個別面談により、生徒の進路志望動向を詳細に掌握し、生徒一人ひとりに対してきめ細やかな指導を行ってきたことが、高い目標を維持させることに繋がった。 ・小論文・面接指導を早期に計画し、進路指導部とも連携しながら全職員で受験指導にあたったことにより、国公立の公募制推薦の合格率をあげることができた。 ・総合型や指定校推薦での合格者のモチベーションを下げさせないことが課題である。 ・成績などの個人情報の取り扱いには細心の注意を要する。
		メンタルヘルスを安定的に保つため、随時面談を実施する。	A		
		教室及び校舎内外の清掃の徹底を図り、学習環境の最適化を図る。	A		
	進路実現のための指導の工夫を図る。	進路指導部と連携して進路講演会・専門学校ガイダンス・面接指導等を実施し、進路に関する情報を提供するとともに、生徒の主体的な進路選択能力の向上を図る。	B		
		学習館・進路指導室・図書館・パソコン室の積極的な利用を促す。	A		
		模擬試験や個人面談を有効に活用することで、生徒一人ひとりの適性、能力等に応じた進路指導の徹底を図り、希望の実現に努める。	A		
		総合的な探究の時間を利用し、自分の進路についての考えを深める。	B		
	課外の充実と生徒が積極的に学習できる環境づくりを目指す。	休日に学習館を開館し、生徒が自主的に学習できる環境を整える。	A		
		課外授業を実施することにより、クラスの枠を越えた生徒交流を図り、互いに啓発しあう関係を育む。	B		
	保護者、地域の小中学校、職員間の連携・協力体制の確立を図る。	ホームページ、Classiを通して、進路や学年の情報を積極的に発信する。	A		
		保護者進路説明会や保護者面談を十分に活用し、学校と保護者との協力体制の強化を図る。	A		

別紙様式 2 (高)

※ 評価規準 A：十分に達成できた。 B：達成できた。 C：概ね達成できた。 D：やや不十分であった。 E：不十分であった。